

第40回通常総代会発言(要旨)

組合員と職員で取り組んだ仲間増やし



木船 雪彦 支部長

毎回仲間増やしの時期になると、こんな小さな地域で、どうやって増やせばいいのかと思いますが、支部として2年連続で目標を達成しています。

どのように仲間を増やすかと、うのき診療所の患者さんで組合員になっていない方に、加入のお願いを郵送します。その後、組合員と職員でグループをつくって訪問します。

「うのき診療所から来ました」と言っていると、快くドアを開けてくれて、話も弾みます。そこで加入をお勧めします。やはり

強みは診療所です。地域に根ざしているの、信頼も厚いです。

地域の活動では、7月の全国鶴の木まつりで、うのき診療所が救護所を受け持ちます。そして、2カ月に1回、うのき診療所の2階で健康お食事班会を行っています。澤浦先生が中心になって、食事づくりやミニ講義、体操などをして、みんなで食事をします。そんな中で皆さんと仲良くなりながら、組合員を増やしていきます。

城南保健生協の初任者研修があつてよかった



森アデルイ 支部長

勤めていた会社が移転することになり、会社を退職するかどうかと悩んでいました。大田労連に相談したところ、城南保健生協の介護の研修があることを知り、問い合わせたところ、受講することが決まりました。講義に使うテキストは、漢字や専門用語がたくさんあり、とくに漢字の読み書きにとても苦労しましたが、講師の皆さんや

水泳で楽しく人生を豊かに



川村 智美 支部長

城南ドルフィンは今年度38年目です。会員数は1000人を超えています。昨年の9月から、いつも利用していた在原文化センタープールが、耐震工事のため1年間使えないことになりました。その期間中の開催が危ぶまれましたが、続けることが大事ということで、品川区と懇談を繰り返して、他の場所で開催できることになりました。現在は週2回行っています。

クラスは子どもクラスが6クラス、大人クラスはウォーキングクラスと泳ぎぞろクラス、なか

地域に広めよう、よろずなんでも相談



山王 淑子 支部長

同級生に親切丁寧にフォローしてもらいました。テスト問題の漢字にすべてフリガナを振ってもらったり、また家族の協力もあって無事試験に合格することができました。

卒業後、訪問介護の仕事をするには、記録を書くことのハードルが高く「無理かなあ」と困っていたところ、ゆたか診療所のデイケアで求人があり、非常勤として働くことになりました。ゆたか診療所では、介護の仕事はもちろんです、品川健康まつりに出店した模擬店や大田区のピースパレードなどに診療所の仲間と参加するなど、とても充実した日々を送っています。



ゆたかの家の手づくり作品も好評

よしクラスは自閉症などの障がいを持つ人たちがコーチとマンツーマンで練習しています。プールでの練習以外に、夏は泊2日の合宿、冬はクリスマス会、季節ごとの生徒とコーチの食事交流会なども行っています。全体の運営については、父母とコーチで運営委員会をつくり行っています。

練習を見ていると、少しずつみんなの泳ぎ方にも成長が見られます。コーチの方々が生徒一人一人に声をかけてくださる姿が、脳いきいきインストラクター

相談で最近増えているのが、医師や看護師から、患者さんの話を聞いてあげてほしいという依頼です。先日来た方は、廃業したけれどもその後末に時間がかり、病気の治療に集中できないう。そんな状況を医師や看護師が心配して、よろずなんでも相談を紹介したのでした。

その方は「これは病気のことだけじゃないんですね。何でも相談ののってもらうんです」とホッと顔をさされていきました。私たち相談員は、さまざまなお話を聞いてあげたいと思います。一人暮らしや高齢者世帯の増加、地域のつながりが希薄になっている中で、城南保健生協の組合員のネットワークを、さらに広げ

みんなで話して、笑いながら脳いきいき



山 恵子 支部長

豊支部では、ゆたか診療所の3階にあるゆたかの家で毎日のようにいろいろな活動を行っています。その中で、毎週一回太極拳を行っています。その講師が、脳いきいきインストラクター

なへてはならないと思います。地域に網の目のよう相談員が求められています。

それぞれの特性を活かして連携を



国田 研二 支部長

東京南部生協と城南保健生協では毎月一回、一緒にできることとはないか協議を続けています。

一昨年から東京南部生協では、地域の見守り、とりわけ高齢者の見守り活動に取り組んでいます。毎週一回ほぼ同じ時間帯に、組合員宅に訪問して商品をお届けするというシステムなので、その先にいる消費者の皆

ターなので、ぜひやりましょうというところで、脳いきいき班会をはじめました。

脳いきいき班会のメニューには、脳いきいき力条というのがあって、毎日実行し、班会で報告します。それがとても大変でした。例えば、毎日違ったコースを歩く、ご飯は腹八分目などいろいろな項目があります。

その中で、声を掛け合います。いろいろなことになり、はじめは会釈から、そのうち、あの人最近見かけないねという会話ができるようにになりました。

それから音読です。憲法前文や9条からはじめ、文学作品や新聞のコラムなどを読みました。そしてゲームです。お手玉などをやりましたが、はじめはできなくてもだんだんできるようになっていきます。そんなことで7カ月続けました。

さんの変化に気づきやすいうことがありますが、いつもなら元気が出てきて荷物を受け取る方が、今日に限って出てこなかったり、新聞がポストにたまっていたりといったちょっとした変化に気づく可能性ががあります。生協としてこうした見守り活動にもう少し取り組めないだろうか、ということ話し合ってきました。

まずは自分たち職員が、認知症サポート養成講座を受け、オンラインングを付けて配達に行こうになりました。そして東京南部生協の組合員向けにもこの講座を開くことになり、城南保健生協と共催という形を取り、各地で開催しています。

また東京南部生協の組合員向けの健康講座や体操教室も、城南保健生協を通じて講師を派遣

多彩な行事を楽しく工夫して



戸張 洋子 支部長

城南保健生協では年間を通してさまざまな行事に取り組んでいます。毎月第一木曜日の10時から、こうした行事の企画・運営する文化スポーツ委員会を行っています。活動を積極的・主体性を持った内容にするため

してもらっています。こうした活動をさらに広げていきたいと思います。

そして、平和の問題でも、原水禁大会報告会の合同開催や戦争法案に反対する運動などで連携できればと考えています。

看護師をめざす学生のみなさんへ



田中 典子 支部長

大田病院看護学生室のことは、主に看護学生や看護師をめざす高校生との関わりです。今年は大田病院に新人が13人入りました。多くの新人看護師を育てるために活動しています。

に話し合っています。

春と秋に行うバスハイクでは、友人・知人に声を掛けて参加を呼びかけています。バスの中での目的地への「到着時間は何時でしょうクイズ」は好評です。参加された組合員さんをお願いをして、手品やハーモニカ演奏をしてもらうなど、参加者が楽しく過ごせるように工夫しながら、加入や増資の呼びかけもしています。

健康まつりでは、今年度から実行委員会に文化スポーツ委員2人が参加しています。また委員会として模擬店を出すことも検討し、他の委員会にも出店を呼びかけていきたいです。

これからもさまざまな行事で、城南保健生協の活動を広めて、加入を訴えていきます。こうした声かけはとても大事な活動であることを意識付けたいと考えています。

まずは学生が大田病院を知ってもらうこと、そして民医連に加盟する病院で看護師をしたいと思います。大田病院では、看護学生の訪問看護の実習を受け入れていきます。そうした学生と話をし、大田病院に入職してもらえようとしています。全国的に看護師は不足しているので、簡単ではありません。

高校生で看護学校に入りたい方のために、年間300人ほどの看護体験を受け入れていきます。また60人ほどの看護師をめざす高校生3年生の模擬面接を行います。ぜひお知り合いやご家族などで看護師をめざしている学生さんがいらっしやいましたらご紹介ください。